

オヤジたちの 国際貢献

35,256発の不発弾処理
1,732回の爆破処理



JMAS

特定非営利活動法人
日本地雷処理を支援する会

オヤジたちの 国際貢献

35,256発の不発弾処理
1,732回の爆破処理

JMAS 特定非営利活動法人
日本地雷処理を支援する会



特定非営利活動法人
日本地雷処理を支援する会
会長

西元 徹也

日本は、この狭い島国に約1億2700万人の人口を抱え、一国の発展と繁栄を裏づける主要天然資源に決して恵まれてはいないにもかかわらず、近代的な生活を営んでおります。さらに国民総生産額（GDP）、国連通常予算分担率および政府開発援助支出額（ODA）のいずれの分野においてもアメリカに次ぐ世界第2位の地位を占め、第3位のヨーロッパ諸国とはODAを除くと2倍もしくはそれ以上の開きがあります。

このような日本の目覚ましい発展と繁栄は、一体どこから来ているのでしょうか？ 石油、天然ガス、石炭をはじめ産業や文化的生活に不可欠な資源については100%もしくはほぼ近い率を国外に依存しているながら、これら重要な資源を確保できるアクセスが自由で安定的であったこと。次に、教育水準や技術力の高さ、勤勉性などをもって輸入資源を付加価値の高い製品に換え、年間約50兆円の外貨を獲得していることが挙げられます。

こうした大量の資源や製品を輸出入するには海上輸送に頼らざるをえませんし、海上交通路が安全に保たれることは極めて重要な条件となります。同時に、海外の市場も安定的に確保されなければなりません。すなわち日本の安全確保はもとより、本当の豊かさを維持発展させるためには国際社会の安定と交流が不可欠です。こうした要件を他国任せにせず、自らも各国と協力し積極的に取り組む必要に迫られています。それが冒頭に述べた日本の国際的地位に付随する責任であり、国益につながることになるからです。

では、どのように維持、達成すればいいのでしょうか？ 自衛隊による国際平和協力活動、例えばPKOやイラク人道復興支援、他国の大規模災害時の国際緊急援助活動などだけでなく日本政府全体としての効果的な協力を実施するとともに、民間の諸機関やNGOなども積極的に活用する必要があります。で

すから国際平和協力は日本の安全と豊かさに直結する基本的な行動であり、国のもつ各分野の力を総合的に発揮しなければならないと考えます。今日の世界には戦争や内戦の後遺症あるいは貧困飢餓、自然災害に悩まされている多くの国々が存在します。それらをできるだけ軽減するために、私たちのようなNGOにも寄与できる多くの分野があるはずで

私たちは、自衛官OBを軸に公務で培った特殊な技術や経験を生かし、他のNGOとは異なる分野で貢献するためにJMAS（日本地雷処理を支援する会）を設立しました。「カンボジアPKO」のほぼ10年後、2002年7月から同国において諸活動に取り組んできました。初めに不発弾処理を選んだ理由は、カンボジアでは地雷より不発弾による犠牲者が多く、同国政府もそれを期待していたこと。そして資金面で不発弾処理しか手が届かなかったこと、などでした。その後、同国での不発弾処理活動を拡大させるとともに、JMAS独自の地雷処理のための調査にも着手しました。さらにアフガニスタンにおける「武装解除・動員解除・社会復帰（DDR）」の国際監視にも取り組むことになりました。

このように活動範囲を広げてきましたが、いま抱えている最大の問題は人材確保ではなく、資金の確保です。もちろん、政府（外務省、財務省）の理解を得て資金援助をいただいておりますが、活動範囲を拡大させるにつれ多額の自己資金が必要になってきます。誤解を恐れずいうなら、これが成果のすべてを決めるといっても過言ではありません。JMASは誕生わずか2年半の赤ん坊のような組織ですから、認知度および財政基盤は貧弱と言わざるをえません。そこで、できるだけ多くの方々に私たちの活動を知っていただけるよう今回の刊行を決意いたしました。自慢できる出来栄とは申せませんが、何の目的で、どこを目標に、どのような活動に勤しみ、そこにまつわる課題などをご理解いただければと願っております。そのうえで力強いお力添えをたまわれば、これにすぐる喜びはありません。

●目次



| | |
|----------------|----|
| 刊行によせて | 2 |
| 目次 | 4 |
| グラビア | 8 |
| JMAS年表 | 16 |
| JMASの活動早わかりQ&A | 20 |

第1章 対人地雷の惨禍

28

| | |
|----------------|----|
| ●被害者統計 | 28 |
| ●地雷のはじまり | 30 |
| ●カンボジアとアフガニスタン | 32 |

第2章 地雷より多い不発弾

36

| | |
|-------------------|----|
| ●人的被害の57%は不発弾 | 36 |
| ●不発弾の種類 | 37 |
| ●なぜ多いの？ | 39 |
| ●そんな所に何故あるの？ | 40 |
| ●アフガニスタン、イラクの不発弾 | 41 |
| Column① 地雷処理用語の解説 | 42 |

第3章 不発弾処理

44

| | |
|----------------------|----|
| ●不発弾処理チームの一日 | 44 |
| ●極限の3K | 48 |
| ●TNT、C-4、導爆線、電気雷管 | 51 |
| ●ハイテクの活用 | 53 |
| ●処理時間 | 55 |
| ●処理経費 | 57 |
| ●事故事例 | 58 |
| Column② 不発弾の危険な活用 | 62 |
| Column③ 第一義的な処理責任者は？ | 63 |

第4章 JMASの誕生

| | |
|---------------------|----|
| ● きっかけ？ | 64 |
| ● NPO設立と認証 | 65 |
| ● 不発弾との遭遇感覚 | 66 |
| ● 活動初日 | 68 |
| ● 地雷処理訓練に参加して | 71 |
| ● アフガニスタンへ | 73 |
| ● ペリリユー島での遺骨収集支援 | 75 |
| Column④ 水汲み、薪採集、魚獲り | 76 |



第5章 オヤジたちの国際貢献

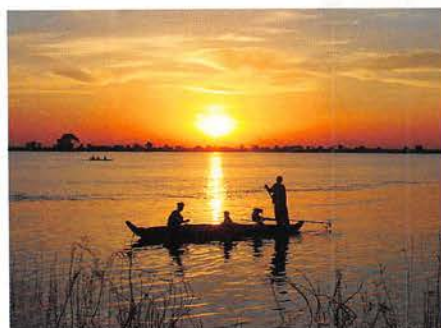
| | |
|-----------------------|----|
| ● 処理実績 | 78 |
| ● オヤジたちの国際貢献 | 81 |
| ● 日本のODAと日本のNGO | 83 |
| ● 他NGOとの連携 | 85 |
| ● 将来計画 | 87 |
| Column⑤ 鉄くずがキャンディーに変身 | 90 |
| Column⑥ ボールや蝶に似ている不発弾 | 92 |



第6章 武器学から見た弾薬類

| | |
|-----------------------|-----|
| ● 武器学 | 94 |
| ● 弾薬及び地雷の使用目的、機能、使用要領 | 95 |
| ● 弾薬及び地雷の破壊力、構造、寿命 | 98 |
| ● 製造、包装、貯蔵、運搬 | 100 |
| Column⑦ カンボジア国民の衣・食・住 | 102 |





第7章 支えと励まし

108

- 愛媛県の人々 108
- JMASへの訪問者 113
- 年金受給のたびに 118
- JMASを支える日本女性 118
- 文房具の寄付 125
- 現地専門家から 126
- JMASを支える法人など 128

第8章 スタッフそれぞれ

132

- 啓蒙担当者 132
- 隊員たちの感想 135
- 現地スタッフの充実感と疲労感 136
- 本部スタッフの感想 139
- ホームページ担当理事から 141
- Column⑧ 保険と補償 143

第9章 JMASの広報活動

144

- 報道実績 144
- 会員名簿 145
- 会員、寄付者の増勢 160
- 入会案内 162
- カンボジア・スタディー・ツアー 164
- 顧問紹介 165
- 現地スタッフ、本部役職員 167

おわりに

170

- 我々にしかできない仕事とは.....
- 王道を進む.....
- NGOはNHK.....
- 活動規模の拡大は危険の増大.....
- 活動4原則の重み.....
- 振り返って、なぜ始めたのか？.....
- Column⑨ アフガニスタンの今.....
- Column⑩ アフガニスタンの明日は！.....
- HPトップページ、マークの由来.....
- 編集後記.....
- 奥付.....

170
172
174
176
179
181



183
186
190
191
192



Contents

Ggravure;

●JMAS設立直前の現地調査(2002年1月24日～1月28日)

JMAS設立有志4名(全般担当、不発弾担当、弾薬担当、地雷担当)はカンボジアにおける地雷処理、不発弾処理の現況を確認し、我々オヤジたちの知識・技能で貢献できるだろうとの結論を得た。



●2002年7月1日、活動開始の日



不発弾処理出発直前

活動地域の県庁（プレイベーン・プロビンス）を訪問挨拶



活動初日の不発弾。JMASにとっては記念品だが処理した



危険な不発弾は現地で移動させずに処理。遠くにJMAS初処理爆破の煙が見える

● 田園の中で

